

2022. 6

vol. 118

改訂版 vol. 48

女性委員会だより

らくだ



公益社団法人 岐阜県建築士会

〒500-8384 岐阜市藪田南5丁目14番12号

岐阜県シンクタンク庁舎4階

〈電話〉(058) 215-9361 〈FAX〉(058) 215-9367



はじめに

退任の挨拶

前女性委員長 伊藤 麻子

この2年間委員長という重責を賜り、不慣れながら委員の皆様のお陰で何とか任期を終えることができます。どうもありがとうございました。

これまでの活動を同様に出来ない中ではありましたが、新たにオンラインでの委員会を開催し、メリットも感じる経験をしました。

また、最近では女性で建築を学ぶ学生や建築士がずいぶん増えたと感じています。

彼女たちには、私たちの世代の男女格差とは全く違う価値観で自由に研鑽を積んで欲しいです。

それにはこれからも女性委員会として何かしら関わりを持ち、活動を広げていければと願っております。



新委員長挨拶

新女性委員長 高野 栄子

このたび再び委員長の任を承り、身の引き締まる思いがいたします。

前回の経験を元にさらに精進して委員会活動に取り組んで行きたいと思っております。

現在コロナ渦で委員会として、思うように活動も出来ず大変な時期になっております。これからのWithコロナの時代、変えるべきところは変えていきつつも、今まで通りにすべきところは前のまま、メリハリをつけた活動が出来れば良いと考えます。

今年度もいろいろな事業を計画しておりますが、今のところ計画通り出来るかどうかは不透明です。しかし、来年2月には、建築士会東海北陸ブロック会女性建築士協議会後期ブロック大会を岐阜県で開催します。各県の皆様に楽しくて満足して頂ける会にするべく準備万端整えて開催したいと思っております。

お気づきの事がございましたら何なりとご意見頂けると助かります。

皆様何卒ご協力よろしくお願いいたします。

建築士会東海北陸ブロック会

女性建築士協議会 運営委員長挨拶

長瀬 八州余

建築士会東海北陸ブロック会女性建築士協議会の運営委員長は2年任期で、各県順番に回って来ます。

令和4年度、5年度は岐阜県が担当です。私が運営委員長、事務局を桂川麻里さんという人事で行う事になりました。

令和5年度には全国女性建築士連絡協議会の全国大会が石川県でおこなわれます。同じブロックの石川県なので東海北陸ブロック会女性建築士協議会も、一致団結して盛り上げていかなくてはならないと思っています。

至らない事ばかりだと思いますが、2年間よろしく申し上げます。

今回の記事

- ◇ はじめに
- ◇ 今回の記事
- ◇ 今後の予定・お知らせ
- ◇ 建築士会 東海北陸ブロック会女性建築士協議会
令和3年度前期定例 Web 会議(三重県)
日 時:令和3年6月26日(土)
- ◇ 令和3年度 全国女性委員長(部会長)会議
日 時:令和3年7月17日(土)
- ◇ セミナー(ZOOM使用)
日 時:令和3年9月7日(火)
テーマ:
『パブリックユニバーサルデザインイレセミナー』
- ◇ 令和3年度 第30回全国女性建築士連絡協議会
(福岡)大会
日 時:令和3年9月25日(土)
会 場:ZOOM ウィビナー使用
アクロス福岡
- ◇ 第63回 建築士会全国大会「広島大会」
日 時:令和3年11月20日(土)
会 場:WEB/LIVE配信
浜松町コンベンションホール
- ◇ 建築士会 東海北陸ブロック会女性建築士協議会
令和3年度 後期ブロック富山大会
日 時:令和4年2月12日(土)
会場:Web 会議(ZOOM 使用)
- ◇ 第20回 気楽にらくだ会
日 時:令和4年2月12日(土)
会 場:岐阜市役所新庁舎
ぎふメディアコスモス

◇ 勉強会・セミナーに参加して

◇ 編集後記

今後の予定・お知らせ

◆ 東海北陸ブロック会前期定例 愛知会議

日時:令和4年6月25日(土)

◆ 第31回全国女性建築士連絡協議会(東京)大会

日時:令和4年7月17日(土)~18日(日)

建築士会東海北陸ブロック会

女性建築士協議会

令和3年度前期定例(三重)会議

日 時:令和3年6月26日(土)

13:30~15:30

会 場:Web 会議(ホスト:三重県)

参加者:25名(岐阜県5名参加)



(↑岐阜県から参加 ふれあい会館での様子)



(↑会議の冊子とお菓子)

■R3 年度前期ブロック会議(三重) 報告

報告者:伊藤 麻子

私たち岐阜県からはふれあい会館に4人(岡田さん、高野さん、桂川さん、伊藤)が集合し、長瀬さんが自宅からWEB参加しました。

受付30分前にパソコンとプロジェクターをつなぎ、カメラとスピーカーを設置して設営終了です。高野さんと桂川さんは他の委員会でも同じようにWEB開催されているので、おかげさまで速やかに準備が出来ました。

WEBでの委員会参加も慣れ、オンラインでしかお会いしていない人もむしろ多いです。

会議資料とお菓子は前もって郵送してもらっており、また審議事項の前年度ブロック会石川会議議事録、事業報告、収支決算報告、今年度役員承認はあらかじめ書類評決にて行われていたので、確認と質疑回答のみで済みました。

質疑は愛知県のワークショップ「すまいのえほん」についての詳細でしたが、これはすまいに関係のある絵本の読み聞かせの後、子どもに折り紙でおうちを作ってもらい、大きな紙に貼り付けて町を造るということでした。楽しそうですが、昨年に引き続き今年も同じ方法は難しいようです。

協議事項についてはまず、今年度後期ブロック富山大会についてです。予定の日時は令和4年2月12日、午前中は女性建築士協議会の会議、午後の全体会、分科会は青年と合同開催でWEBより動画を交えながらのライブとなっています。

女性の会議は別日という事もあり得ましたが、県単位で集合して参加する事を踏まえ一日で開催することとなりました。

続いて定例会議の持ち回り順について確認が行われましたが、青年と合同開催する県とそうでない県、また静岡県に女性委員会が無いこと、その他で申し合わせの順番通りに進められなく、取り決めに不明瞭な部分があることに意見が交わされました。

その次に令和5年度全建女の開催地は石川県でほぼ確定と伝えられました。

その他助成費について、今年度から全建女参加の出席、分科会へは1件15,000円。WEB会議の会場費は定例会議費より支出。事業積立金は通常通り30,000円となりました。

去年から岐阜県の委員会もWEBでしたが、今回しばらくぶりに女性委員会のために岐阜市に赴き、委員の皆さんにお会いしました。やはり直接話すのはいいものだと改めて思いました。



(↑ Web 会議の様子)



(↑ 岐阜県から参加 ふれあい会館での様子)



令和3年度

全国女性委員長（部会長）会議

日時: 令和3年7月17日(土) 13:30～16:10

場所: WEB 上にて開催

参加者: 連合会会長、副会長、委員長をはじめ 59 名
(岐阜県からは委員長1名)

令和3年度 全国女性委員長 (部会長) 会議 報告

報告者: 伊藤 麻子

<協議事項>

- 1) 令和3年度全建女(福岡) アクロス福岡+ZOOM
9月25日 10:00～12:00 分科会
13:00～13:20 開会式
13:20～14:20 被災地報告
14:30～16:00 基調講演
「建築空間を支える木の文化～木挽棟梁のモノサシ～」
16:00～16:35 全体会

岐阜では状況次第ですが、1カ所に参集してオンライン参加を考えています。

福岡県からは集まっての参加県はなにがしかのお楽しみを用意するそうです。

- 2) 第63回建築士会全国大会(広島大会)
令和3年11月20日(土)
女性委員会セッション
「和の空間の魅力を探る…みたび」
10:00～11:30 広島グリーンアリーナ

<報告事項>

- 1) 令和5年度第32回全国女性建築士連絡協議会
石川県で行うことが正式に決定しました。
- 2) 各都道府県活動報告
女性会員が少なくなり、活動継続の是非を検討しているところが数県、青年委員会と合併したところもありました。WEBを活用した委員会や対策を十分に行った上で

のワークショップを開催しているところも多くありましたが、全く活動しなかった県や以前と変わらず対面で委員会を行った県がありました。神奈川の「メイクレッスン講座」、愛媛の「顔ヨガ体験」など珍しい企画も報告されました。また、長崎からは女性の委員会への入会が少ないため、全建女の第一分科会(長瀬さん発表)に参加して見聞を深めたいと言われました！

岐阜からは委員会の他に「たくみ女子会」と「女性委員会だより らくだ」ふくまち部会の「もとす広域連合との連携協定」について報告しました。

会議を終えて…

WEBでは2回目となり、一層スムーズに進行していきましました。WEBソフトはZOOMが一般的だと思いますが、東京では勤務先でよく使うというTeamsも使用しているそうでした。淡路副会長の挨拶で、女性委員会はWEBを使いこなして素晴らしいとのコメントがありましたが、まだ自信のない私は一人苦笑いするしかありませんでした。



(↑会議の様子)



(↑会議の様子)



『パブリックユニバーサル デザイントイレセミナー』

日時: 令和3年9月7日(火) 13:30~14:40

会場: ZOOM 配信 (ZOOM ミーティング使用)

テーマ: 『パブリックユニバーサルデザイントイレセミナー』

講師: TOTO 中部支社市場開発部

三由 優貴子 氏

参加者: 19名 (内女性委員9名)



(↑セミナーの様子)

岐阜県の士会員だけでなく、委員長が東海北陸ブロック会へも案内を出していたので、他県の方も参加されました。

■セミナーに参加して

報告者: 松村久美子

内容:

- 01 ゾーニングの考え方・トイレ出入口配慮のポイント
- 02 器具数について・空気調和・衛生工学会の算定
- 03 動作空間について・適正なスペースの確保
- 04 さまざまな利用者への配慮
- 05 器具選定について・洋式化・和式のリスク

ZOOM での 1 時間と限られた時間の中で、主に<04 さまざまな利用者への配慮について> 配慮のポイントを

説明されました。

2021年3月に改正された「高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準」

トイレに関する主な改正のポイントは

・重度障害者・介助者等への配慮の充実

<車いす使用者トイレ>

・トイレ機能の分散配置の促進のためトイレの室名表示のガイド追加

・小規模建築物のバリアフリー化

トイレ機能の分散配置については車いす使用者トイレへの利用者集中を緩和するため乳幼児連れやオストメイトに配慮した設備をトイレ全体に分散して配置する考え方が設計のポイントであること。

障害者等に配慮したトイレを総称して「バリアフリースイートイレ」と位置づけ「多目的」「多機能」「誰でも」などだれもが利用できるようなネーミングを避けた案内表示をすることも気をつけたいポイントでした。

動作映像から考える配慮ポイントでは車いす利用者とオストメイト(両者とも模擬)のトイレ内での動作、動線や小物を置く場所、車いすから便器への移乗、手の洗い方などを学びました。動画はとても分かりやすく大変参考になりました。今回は一例でしたが他の使い方もぜひ見てみたいです。

自動で便蓋が閉まってから自動で洗浄する便器や手をかざすことで便蓋が開閉する便器が8月に発売されたとのこと。非接触が当たり前になり常に変化の毎日です。

アンテナを張り情報を更新していこうと思いました。



(↑セミナーの内容)



令和3年度

第30回全国女性建築士連絡協議会

(福岡)大会

日時: 令和3年9月25日(土)

会場: ZOOM ウェビナー 使用

アクロス福岡 6階 会議室

(福岡市中央区天神一丁目1番1号)

参加者: 438名参加申し込み(岐阜県から6名参加)

テーマ: 「未来へつなぐ住居環境づくり」



(↑福岡会場 スタッフの集合写真)

令和3年度 第30回全国女性建築士

連絡協議会(福岡)に参加して

報告者: 長瀬 八州余

昨年は中止となった全建女ですが、今年はリモートで開催されました。

最初は一部県外からの参加も OK ということで参加を募っていましたが、コロナの患者数が右肩上がりになり、

主催県の福岡県は会場に集まりますが、他は全てリモートでの参加ということになりました。

委員会等ではZOOMを使用しての会議を行っていても、このような全国規模の大会を全てリモートでおこなう事は皆さんが始めてで、準備等が本当に大変だったと思います。

受付は9時半からでしたが、福岡会場は7時半前に集合して、検温等をして、準備に入られたようです。

受付の9時半～10時までの30分間は、「会場のアクロス福岡の紹介動画」や「建築士会女性委員会活動のポスターセッション 2020」、「分科会での注意事項」等を流していました。

10時から各分科会がはじまります。コメンテーターの発表は録画での発表でしたが、質疑応答等はライブで行われました。

1時間の休憩時間は、九州産業大学学生制作のアクロス福岡の紹介動画や九州沖縄ブロックからの魅力ある和の空間ガイドブックの作品紹介が流されました。

13時より開会式、被災地報告、基調講演、全体会と進み、大きなアクシデントもなく無事に終了しました。

最後の全体総評で石貫さんが、「一度も皆さんに直接会うことなく、最後までお目にかかることなく来ました」と話されていましたが、慣れない方法で進めなくてはならず、ご苦勞をされたのだらうと思いました。

今まで二日間で行っていて内容を一日で行う事で、一日が充実していましたが、疲れました。参加するだけの私より運営サイドの方はもっとお疲れなのだらうと思いません。本当にお疲れ様でした。



(↑福岡会場の様子)

◆分科会 リスト◆

- ・1-1分科会「心地よい和の空間」
- ・1-2分科会「会員拡大に向けた取り組み／楽しむことを忘れない軽やかな女性たち」
岐阜県建築士会 女性委員会 発表
- ・2-1分科会「倅せもついてくる高性能なエコハウス」
- ・2-2分科会「子どもとまち・建築」
- ・3-1分科会「被災した古民家を生かしたまちづくり」
- ・3-2分科会「高齢社会とまちづくり」
私のまち 起承転…」
- ・4-1分科会「森林で自立する村づくりと熊本復興支援」
- ・4-2分科会「空き家 見えるカルテ」

例年だと一分科会は2時間で一つの分科会でおこなわれていましたが、今回は1時間ずつ二つの分科会での一つの括りで開催されました。
できるだけ似たような内容の括りになっています。

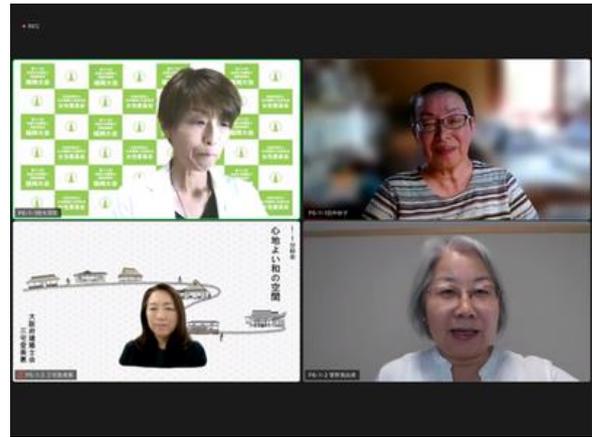
■1-1分科会「心地よい和の空間」

報告者：高野 栄子

全建女で取り組む「魅力ある和の空間ガイドブック」の公開から3年たち、和の空間についての佐賀県と大阪府の活動報告でした。

佐賀県では、有田町での町並み保存の活動について発表でした。有田町は「有田焼」で有名な焼き物の町です。その焼き物を扱う商家等が建つ町並みが伝統的建造物保存地区になっているそうです。特徴的な意匠を持つ伝統的建物を保存、修復する活動をされていました。

大阪ではガイドブックを活用し、掲載されている建物の見学会を開催されていました。観光ガイドのように各地に出かける際、和の空間ガイドブックにある建物を見学することも楽しそうでした。私もぜひ旅行に行く前にガイドブックを眺めて見ようかと思いました。



(↑1-1分科会)

■1-2分科会

「会員拡大に向けた取り組み／楽しむことを忘れない軽やかな女性たち」のコメントーターになって

報告者：長瀬 八州余

令和2年度の全建女での分科会発表の準備をしていましたが、コロナ禍の為に中止になり、新たに令和3年度分科会への打診が、岐阜県建築士会女性委員会にきました。準備をしていた資料がありますので、それを少し手直しすれば、発表はできるということで、お受けすることになりました。

リモート参加で、当日の発表は録画でということで、例年と異なりましたが、どうにか録画データーを納める事ができました。録画なので、何度でもやり直しできたことは良かったことです。

各数回、連合会主催で ZOOM ウェビナーの操作方法の勉強会がおこなわれ、福岡県主催では接続確認や分科会の進め方の練習会がおこなわれました。それとは別に1-2分科会担当の齋藤さん、新海さんとの ZOOM 会議や他の方を誘ってのデモ発表練習会など、今までの対面であればおこなわないような会議をおこないました。でもリモートなので夜7時からとか8時からの会議なので、仕事の調整をすることもなく、進めることができた事は良かったと思います。

当日は8時35分にパソコンの前に待機して、ラインからの指示があったら、入室します。その後練習セッションを9時半までおこない、30分休憩となり、開始時間の10時となって録画が流れ、動画終了後、司会者の齋藤さんから京都の冨山さんと長瀬の紹介があり、ライブが始まりました。

質疑応答の時間の時は対面だと会場の雰囲気になんとか進めることができますが、リモートで相手の顔を見ることができませんので、質問が無く、時間が余ったらどうしょねと心配しておりましたが、Q&Aに沢山の方が質問をしてくださり、ありがとうございました。

岐阜県の活動内容が他県の参考になればうれしいのですが、どうだったのでしょうか。

第1分科会の参加者はスタッフも含めて変動はありますが、85名程の参加がありました。多くの方が参加してくださりありがとうございました。



(↑1-2分科会 最後の挨拶でアシスタントの新海も参加して)



(↑後日 コメントターをしたお礼として木の葉が福岡県建築士会から送られて来ました。良い記念になりました。ありがとうございました。)

■2-1分科会

『倅せもついてくる高性能なエコハウス』

報告者 岡田 利里

最近、ZEB や ZEH という言葉をよく耳にするようになり、まだ実際の業務では関わってはいませんが、そのうちにとっていたので、分科会のプログラムを見たときに、興味をもちました。コメントターの江藤真理子さんは、パッシブデザインやバウビオロジー(ドイツ発祥の建築生物学)を学んで実践され、快適空間を得ながら、CO2排出量の削減や光熱費削減の効果を出す住宅の設計をされています。

最初にお話しされた、深刻化する地球環境問題に対して、建物の設計という仕事は、そこに力を注げる立場であり、未来へ貢献できる立場であるとの言葉に感銘を受けました。

事例紹介された住宅は、漆喰や焼杉の外壁、木製サッシやガラリ雨戸、勾配天井のリビングなど、写真からも快適そうな住宅だと思いましたが、『家にいるのが一番心地よくて外に出たくないほど。インテリアや家具にこだわるよりも、空気にこだわるの方が贅沢と言えるかもしれない』という住まい手の言葉が印象的でした。

外皮性能が同じでも、地域や敷地により気象条件や日照条件は変わり、集熱開口面積や日射遮蔽方法により室温や快適性が変わり、冷暖房負荷や消費エネルギーに違いが生じるため、外皮性能は一つの目安に過ぎない。『省エネルギー基準』より高い外皮性能の『ZEH基準』、それより高い外皮性能の『HEAT20』の G2 程度の基準が必要とのことでした。

ZEH の条件を満たすことだけではない、深い知識を持って実践されていることが良く分かりましたし、日本でも今後、欧米のようにそういった基準が義務化されてくるでしょうから、理解を深め、これからの設計で意識していきたいと思いました。



(↑2-1分科会の様子)

■2-2分科会

『子どもとまち・建築

～誰でも昔は子どもだった～』

報告者 岡田 利里

神奈川県による、発足から 27 年間の活動の紹介とコロナ禍での取り組みについての発表でした。

子どもたちが住まいや町に関心を向けるきっかけ作りということで、学校での授業内容を考えたり、先生向けに模型製作講座、学童でのワークショップとして土壁塗りや、土間たたきの体験会などをされてきました。

コロナ禍での取り組みとしては、2つ紹介がありました。夏休みのワークショップで、パスタをウイナーで繋いで強度を競うパスタブリッジを、オンライン併用で行ったこと、先生はオンラインで、子供たちは集まって、タブレットとスマホを駆使したワークショップだったようです。茅葺屋根の見学会は、現場で生の声を聞いて五感で感じられるようにとのことから、オンラインではなかったのですが、できるだけ滞在時間を短く、密にならないようにするなど工夫をしたそうです。

以前体験した子供が大学生になってボランティアスタッフとして関わっているということが印象的でした。



(↑2-2分科会の様子)

■3-1分科会

『熊本地震で被災した古民家を活かしたまちづくり』

報告者: 桂川麻里

この分科会のテーマを聞いて熊本地震の後の全建女か、全国大会かは忘れてしまいましたが、文化財等に指定されていないが、後世に残したい古民家が否応なしに壊されないように活動を始めていると聞いて、その時私の地域の古くて良い建物も子の代になるとメンテナンスが出来ず壊されるだろうという話があり、ここで災害が起きればそれこそ否応なしに壊されるんだろうと思っていたのを思い出しました。今回そういう建物がどのようにに活用それがどうなったかということも知りたくこの分科会に参加しました。

コメンテーターの松野さんは益城町の文化財保護委員を委嘱され、残したい建物に出会い講習を受けヘリテージマネージャーになったそうです。その後県からの依頼により熊本県建築士会で近代和風建築物の保存状況の把握の基礎資料を作っていたそうです。それがちょうど地震発生の約1年前でした。この調査を行い資料作成したことが今回大いに役に立っているようでした。

この分科会に参加して初めて知った言葉がありました。「文化財レスキュー」と「文化財ドクター」です。しかしこれらに対応するのは災害が起こった時点で文化財になっているものです。今回はこれに当てはまらないからと諦めてしまうのではなく「建物修復ネットワーク」の方等の御協力の元具体的に取り組んできたことはすごいことだと思いました。

しかし、今回一番すごいと思ったことは補助金をが出たから建物を修復し、後は所有者へお任せだけではなく、その後のどう残していくか、後継者である方々にも会合やイベントに参加してもらうことで、愛着を持ってもらう取組をしてきたことです。

松野さんのお話の後、(株)ましきぐらくしの代表の方のと被災された方のメッセージ動画を見せて頂きました。

(株)ましきぐらしでは2件の古民家を借りて来年度の開

業を目指しているそうです。熊本に行った際には寄って来たいなと思いました。

益城町赤井地区の古民家の所有者の城本様方のメッセージでは、3年経ってようやく改修が終わったそうです。被災直後の写真も見せて頂きましたが150年以上続いたものが自分の代でなくならなかったことにとても安堵された顔が印象的でした。復興に際して地元の歴史を知り「地震のおかげで赤井の素晴らしさを認識した」と言われ、「地震のせい」ではなく「おかげ」と言えるのも松野さん達の取組があったからだと思いました。

最後に司会、アシスタント、松野さんの3人で追加報告と意見交換を行ってくれました。

古民家では城本家ではだいぶ被害がありました。河端家は戸川岩盤の上で比較的被害が少なかったことや、漆喰壁を鉄板で覆っていたのを被災を機に当初の漆喰壁に戻したりと良い方向への修復をしてとても参考になりました。

また、社寺仏閣では木山神宮は屋根だけになってしまっている状態でしたが、史跡として文化の指定をし修復を行なった話や、皆乗寺では構造材だけではなく海老虹梁や下からはほとんど見えない象鼻も修復出来たのはとても良いことだと思いました。

今回の活動で松野様はボランティアではなくヘリテージマネージャーとして業務として作業し、建築士会から業務料をもらったそうです。詳しいことは「熊本県教育委員会文化課へ」とのことでした。士会で契約か個人で契約かどの県でも問題になっていると思います。こういう情報にもアンテナを張り巡らしたいと思いました。

最後に松野さんからのメッセージで、「私たちの出来ることは限られているが、被災された方に寄り添っていく」とも心に沁みました。



(↑3-1分科会)

■3-2分科会

「高齢社会とまちづくり」

私のまち起承転・・・」

報告者: 下川 滝美

今回の全建女はコロナ禍であることからzoomで、司会進行、コメンテーター、アシスタントの方がそれぞれのところからの配信でした。

コメンテーターの松橋さんとは20年以上前から東京に本部がある高住会の知り合いで、旧鷹巣町の「住民参加の福祉のまちづくり」については介護保険が始まる前から取り組んでおられテレビでも何度も放映されていたりして知ってはいたのですが松橋さんのお話が聞けるといって楽しみにしていました。

新首長が福祉に理解があったことからはじまった住民参加のまちづくりは当事者の問題を知ることからはじめたということ。その中からいくつかのワーキンググループができてそれが今の福祉サービスとつながっていることなどあらためてその活動が素晴らしい取組だったと思いました。

高齢社会は特別なことではないということ。世界での障害者の割合は15%、高齢者は30%。

ハンディキャップをもった人が当たり前で暮らせる社会。年寄りが元気に過ごせる町をつかっていきたい。そのためにこれからは若い人のサポーターとしても活動したいという松橋さんの話を聞いてとても熱い思いが伝わりました。

福岡大会で開催されていたら行く事ができなかった今回の全建女ですがスタッフの方のご尽力でまるでライブでそこに参加しているような気分で話しが聞けました。とても良い大会でした。



(↑福岡会場 第3分科会 会場の様子)



(↑福岡会場 第4分科会 会場の様子 今回岐阜県からの参加はありませんでした)

・「令和2年7月豪雨災害支援活動報告」
熊本県建築士会 盛高 麻衣子

■被災地報告について

報告者:高野 栄子

今年度は、宮城県、福島県、長野県、千葉県、熊本県の5県が報告されました。

福島県は今なお続く原発事故の現地を動画で撮影されていました。車で帰還困難区域の周りをめぐって現在の状況を見せてくださいました。ニュースの映像よりリアリティがありとてもよくわかりました。

宮城県では、南三陸町の報告がされました。新しい建物が次々と建ち、着々と復興が進んで、新しい街が出来つつありました。隈研吾氏が設計した道の駅は震災伝承館が併設されているようです。ぜひ一度行ってみたいと思いました。

長野、千葉、熊本は台風と豪雨の被災報告でした。どの地方も予期せぬ災害に戸惑いながらも被災者となった各県の建築士の方が実際に自分で経験したことを報告されていました。

全建女では東日本大震災以後、毎回被災地報告の時間が設けられています。被災地の方々のお話を聞いた時、もし自分だったらと考え防災意識を高めるいい機会になりました。

◆被災地報告◆

・「福島の復興～光と影、そして現在(いま)～」
福島県建築士会 村越 のぞみ

・「南三陸町のその後について」
宮城県建築士会 小林 淑子

・「令和元年(2019)台風19号の爪痕」
長野県建築士会 吉澤 まゆみ

・「令和元年房総半島台風」
千葉県建築士会 武藤 亜希子



(長野県の報告)

◆基調講演◆

テーマ:「建築空間を支える木の文化 木挽棟梁のモノサシ」

講師: 有限会社杉岡製作所

代表取締役 杉岡 世邦(すぎおかとしくに)氏

■令和3年度 全建女 基調講演

報告者:伊藤麻子

9月25日に行われた全建女はZOOMでの参加でしたが、講演会場からの生中継でしたので、ライブの高揚感がありました。

私、不勉強であるため木挽棟梁という職業は今回初めて耳にしました。文字から想像するに「杣人(そまびと)」というようなスティックなイメージがありましたが、杉岡氏はやはり凜とした姿と声の方でした。

日本人と木の付き合いは永く、古文書などから関連の文を引用しながら古代から立木、木材共に大切にしてきたことを説明いただきました。木挽棟梁とは、山林の管理、伐採、製材を取り仕切る仕事ですが、昔と同じ形態ではやっていけずしかし、この分野でのプロであるということから現代の木挽棟梁と名乗ったとのことでした。木の中でも杉は九州地方では日田すぎ、飢肥(おび)杉などのブランドを持ち、優れた利用をされていますが、これら杉の価値を一般には理解されていないことが全国的に問題となっています。しかしこのように丁寧に向き合い、文化を継承していくことはとても大切なことと感じ、私も携わるひとりとしてさらに理解を深め、伝える努力をしようと思いました。



(↑基調講演 講師:杉岡世邦氏)



第63回建築士会全国大会

「広島大会」

日時:令和3年11月20日(土)

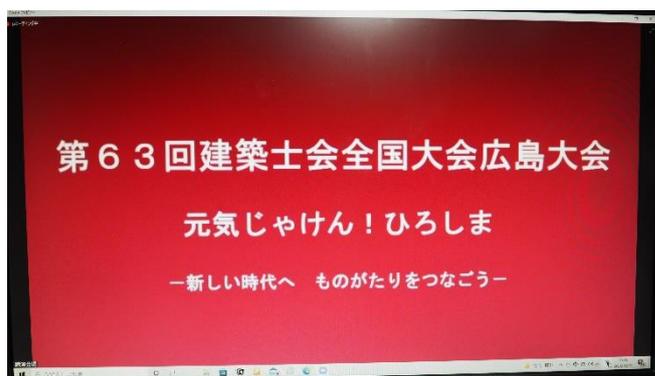
会場:WEB/LIVE 配信(参加費無料)

浜松町コンベンションホール

(東京都港区浜松町二丁目3番1号)

テーマ:元気じゃけん!ひろしま

—新しい時代へものがたりをつなごう—



令和2年に前回の全国大会から55年ぶりでの開催予定の広島大会でしたが、コロナ禍の中1年順延となり現地開催として進めて、現地参加の申し込みは2,000名以上有りましたが、コロナ禍第5波の影響で3ヶ月前にWEB/LIVE配信に急遽変更になりました。一部は浜松町コンベンションホールにて開催されましたが、多くの方はWEBにての参加となりました。

式典は例年通りおこなわれましたが、令和2年と令和3年の2年間の物故者、連合会会長表彰、伝統的技能者表彰等がおこなわれました。



(↑会場の様子)

令和4年は10月14日(金)に秋田県にて開催される予定です。
 前回の建築士会全国大会秋田大会から40年ぶり、秋田建築士会70周年となる年の開催になるという説明がありました。



(↑ 次回開催秋田県のアピールの様子)

■ 記念対談

テーマ: 解剖学者と建築探偵からの“遺言”
 ～自然・歴史・文化・建築～
 対談者: 養老孟司 × 藤森照信

報告者: 伊藤麻子

オンライン配信ではありましたが、生配信ならではの高揚感がある中での記念対談が始まりました。養老氏はややショッキングな文章でぼんやり生活する私たち現代人を覚醒させようとする「怖い」人という印象が有ります。以前地元で開催された講演に出かけたときも厳しいまなざしでマイクを握っていたことが忘れられません。一方藤森氏は土から生まれたような建築物がとてもユニークで魅力的ですね。

始めはお二方とも自然に対する考え方を示され、次に藤森氏設計の「養老昆虫館」

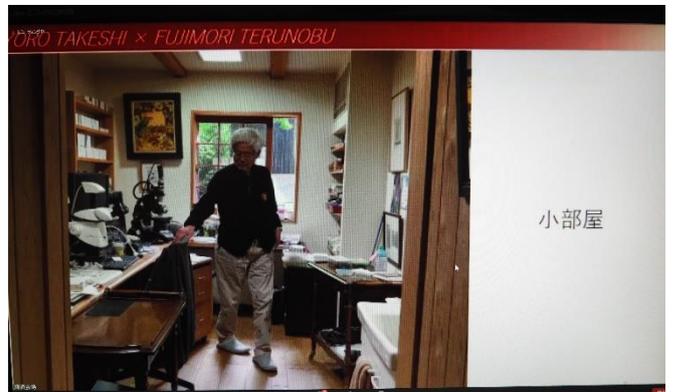
についてエピソードを交えながらの解説がありました。小さい建築物ですが、内部は標本や書籍が多数収納でき、またゆったり執筆や他の作業ができる気持ちの良い空間です。

対談の進行は広島県建築士会のメンバーで、この難しい役目に果敢に取り組まれた様子でした。あまりに率直

な質問「自然と建築の関わりは何ですか？」最後に遺言をお話下さい」など、養老先生が苦笑することもしばしばでしたが、それ故に印象に残りました。



(↑ 会場の様子)



(↑ 会場の様子)

■ 福祉まちづくりセッションに参加して

報告者: 伊藤麻子

岐阜県での活動報告では、下川さんと桂川さんが発表されました。大きな成果として、もとす広域連合「介護保険住宅改修適正化事業」のことについて説明されました。岐阜の福まちも令和元年から始まりましたが、私も微力ながら色々やったことが思い出されました。また、神奈川県では「専門職連携 住宅改修ワークショップオンライン研修会」

で建築士の他、理学療法士、作業療法士などが加わり課題によりグループワークを行ったことが報告されました。介護のための住宅改修はこれから益々重要となってくることでしょうが、建築士が十分に係わることはまだまだあまり進んでいませんが、各建築士会それぞれの熱意で様々な取り組みがあることがわかりました。私個人としてもさらに研鑽を積みたいと思いました。



建築士会東海北陸ブロック会

女性建築士協議会

令和3年度後期ブロック富山大会

日時: 令和4年2月12日(土)

【女性建築士協議会 会議】10:00～12:20

会場: WEB 会議(ZOOM ミーティング使用)

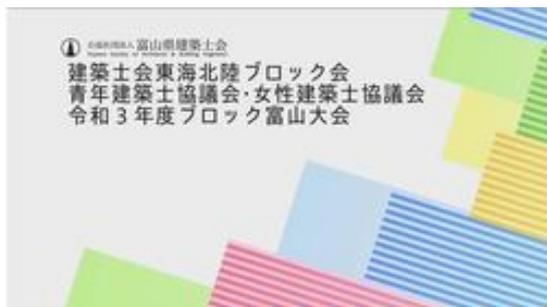
参加者: 32名(内岐阜県から3名参加)

【富山大会】配信開始 12:30、開会 13:00～16:20 終了

会場: WEB 配信(YouTube 使用)

大会テーマ: 伝える力 ～動画で学ぶ、富山市の魅力～

午前中に女性建築士協議会の後期会議がおこなわれ、午後から青年建築士協議会・女性建築士協議会との共催での富山大会がおこなわれました。



会議での集合写真

参加者の多くがピンク色の華やかな画面背景「shinkansen」を使用されていますが、これは「富山模様」といってテキスタイルデザイナーの鈴木マサルによるもので事前にデータが送られてきました。

使用してもしなくてもよいので、13種類の中から自分の気に入った模様ががあれば使用してくださいとの事でした。

令和3年度後期定例(富山)会議の報告

報告者 伊藤麻子

今回もオンライン開催となり、岐阜県からは長瀬さん、桂川さん、伊藤の3名参加でした。(岡田さんが急遽欠席となり、議決権は長瀬さんが代理でおこなって下さいました。)参加者の多くがピンク色の華やかな画面背景を使用されていましたが、これは「富山模様」といってテキスタイルデザイナーの鈴木マサルによるものだそうです。また、資料と共にあらかじめ送付いただいたお菓子は、富山県産大豆を使用した三島豆です。高山にもある私も大好きなお菓子です。

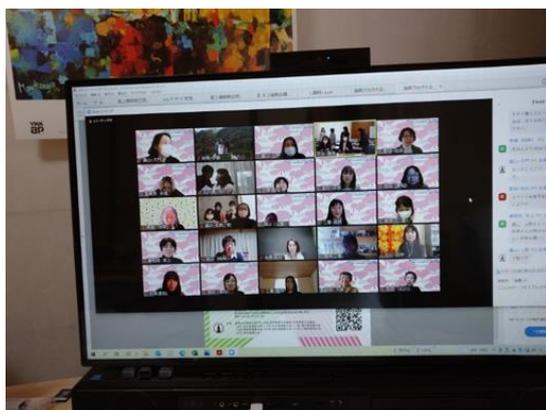
ご存じの通り、来年度からはブロック会の運営委員長は長瀬さん、事務局は桂川さんとなっているので、次年度役員案の承認後には長瀬さんから一言挨拶がありました。

来年度後期ブロック大会については、岐阜下呂での開催、ブロック事業はふくま建築士の支援業務についての発表であることを伊藤より説明させていただきました。

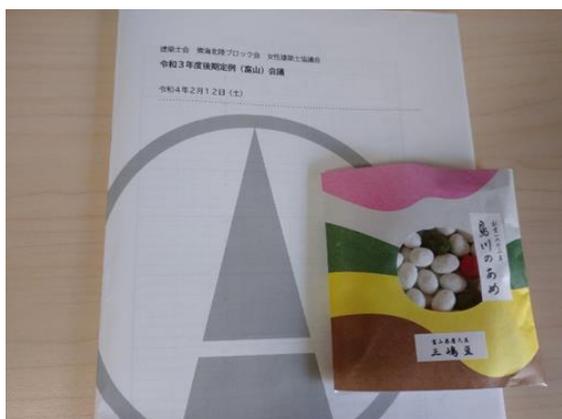
活動費について、コロナ下で実際の活動が出来ないため会場費や交通費が不要な代わりに資料の郵送料や機材にお金がかかる。令和5年度開催予定の石川県での全建女ではハイブリッド開催とすると、想定していたより多くの費用がかかりそうである。また、大森相談役からは、連合会から毎年ブロック事業活動に支援があったが、以前のように活動出来ていなかった場合はブロック事業の活動報告しだいによっては見直しされる可能性があるとのお話がありました。

次回の全建女(東京)、全国大会(秋田)での発表担当県はおおむね下記で決定となりました。

- 1、全建女活動発表(15分程度): 愛知県
- 2、全建女ワン・バイ・ワン(1分程度): 富山県
- 3、全建女分科会: 福井県で検討
- 4、全国大会「和の空間」石川県
・・・次回全建女開催県として



(↑リモートでの会議の様子)



(↑会議資料と一緒に送られて来た、富山名産品の三嶋豆)

■令和3年度ブロック富山大会に参加して

報告者:長瀬 八州余

昨年の石川大会同様 WEB 配信で YouTube にて拝聴しました。

開会式前の 30 分間は富山市内のおすすめ場所を動画にて、今日の分科会講師の金子奈央氏を MC に、富山県建築士会のメンバーが紹介をしていました。



(↑動画の一場面)

開会式の司会者はライブにて、挨拶等は録画での配信となっていました。

全体会の東海北陸ブロック会各県活動報告、東海北陸ブロック青年建築士協議会活動報告、東海北陸ブロック女性建築士協議会活動報告はリモートでの座談会形式でおこなわれました。



(↑座談会 参加者紹介の様子)

司会者は今大会の実行委員長の姉崎聖子さんで各県の青年委員長7名と富山県女性委員長、東海北陸ブロック会女性建築士協議会運営委員長、富山県から1名の計11名の座談会形式で報告をされていました。肩肘の張らない穏やかな雰囲気を楽しそうでした。

休憩をはさみ、分科会です。

時間が押されることもなく、時間通りに閉会式が始まりました。

次年度大会 PR として静岡大会のお知らせがありました。青年建築士協議会だけのお知らせでした。青年建築士協議会・女性建築士協議会となっているので、女性建築士協議会が計画している前期会議、後期大会のお知らせもしていただきました。ありがとうございました。

富山県の皆様ありがとうございました。

■第1部講演会

『メディアを通じた魅力の伝え方』を聞いて

報告者:岡田 利里

「富山の遊び場！」という富山で最も多くみられているサイト代表の金子奈央氏は、結婚後間もなく静岡県から富山県氷見町に移住されましたが、スーパーや病院に行くにも車で 30 分かかかるような地域だったため、インターネットで情報を調べようとしても、当時は情報があまりなかったそうです。

しかし、住んでいくうちに面白い場所が色々あることが分かり、「インターネットの情報がない」イコール「魅力がない」訳ではない。それなら自分で発信しようと、「富山の遊び場！」というサイトを自ら設立されました。

当初は Web サイトと Facebook でしたが、現在は Instagram、YouTube、TikTok も開設されていて Instagram のフォロワー数は 5.3 万人だそうです！

そのような人気のあるサイトになったのも、ただやみくもに情報発信しているのではなく、テクニックがあるようで、そのポイントをお話いただきました。

印象に残ったのは、『老若男女に向けた動画は誰にも刺さらないので、ターゲットを設定する』ということ。それから、『発信している情報が有益であるかどうか』が大切』ということです。金子さんは動画配信をお仕事にしてみえるだけあって、魅力的な方で、トークも面白く、引き込まれてしまいました。

建物を紹介する場合も、写真で見るより動画で見る方が臨場感があり、実際に行ったように感じられると思います。最近の世の中の状況では、見たい建物があっても気軽に行けない場合もあるので、動画を使った見学会や、それを外部に発信することも出来たらいいと思いました。



(↑分科会の様子)

■第2部 ワークショップ

『初めての動画作成講座』を聞いて

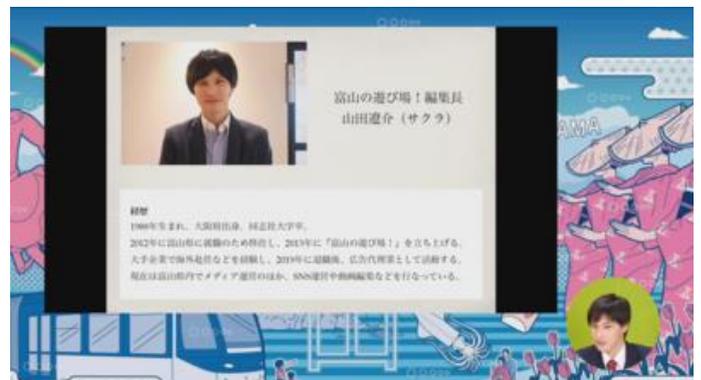
報告者: 桂川 麻里

カメラやスマホの動画機能を使用しての短い動画を撮影したことはありますが、自分で見て楽しむためだけなので、動画編集をすることはなかったのですが、コロナ禍においてこれからは他の方にも見てもらい、楽しんでもらう動画を作成する必要があるなと思いこのワークショップを楽しみにしていました。

パソコンを使用しなくてもスマホで無料で編集出来るアプリ「VLLO」を使用しての講座でした。まったく初めての方は難しい内容かなと思いましたが、パソコンで Windows のフォトからのビデオエディターで少しか動画編集をしたことがあったのですが、基本的動作がだいたい同じだったので内容がスッと入り、独学ではちょっと疑問に思っていたことが順を追って説明して頂けたので分かりやすかったです。

また、文字の種類や音楽が「VLLO」のアプリの方が多いので楽しい動画が作れるかなと思いました。

その後、各県からの動画編集を見ましたが、ただ動画を流しているより編集されているほうが内容が分かり易く、またいつもは無音で YouTube 等を見ていますが、音楽が重要な要素だなと思ったので、参考に今度から音も一緒に聞いてみようと思いました。



(↑分科会の様子)

気楽にらくだ会

『岐阜市役所新庁舎見学会』

日時: 令和4年3月3日(木)

9:45~10:00 集合

10:00~10:45 岐阜市役所新庁舎見学会
(加藤氏、小島氏)

11:00~12:00 メディアコスモスに移動し、
片桐栄治氏(大日本土木株式会社)
による解説

12:00~13:00 交流会
交流会はコロナ禍の為中止

会場: 岐阜市役所新庁舎／

ぎふメディアコスモス 考えるスタジオ1

参加者: 9名(一般士会員1名、女性委員8名)



(岐阜市役所北口前にて集合写真)

■気楽にらくだ会に参加して

報告者: 森崎 麻充

職員の方2名(加藤氏、小島氏)にご案内頂き、岐阜市役所新庁舎を見学しました。

自然換気や太陽光の利用等を、説明を受けながら実際に目にする事で、環境に配慮した持続可能な庁舎であることを、深く感じました。

みどりの丘は、岐阜や金華山に因んだ植栽や石等で構成されており、庁舎に居ながらも自然を味わうことが出来、心豊かな場所となっていました。

見学後には、施工業者の現場所長さんに、新庁舎の解説をしていただきました。

特に掘削時の地下水対策や、鉄骨ベースプレートの平滑精度の確保等は大変興味深い内容で、あっという間に時間が過ぎてしまいました。

コロナ禍で女性委員の皆さんとも直接お目にかかる機会が少なくなっていますが、久しぶりの再会を心から嬉しく思いました。



↑ ミンナトにて素敵は絵が掛かっていました。

企業からの寄附だそうです。

手前に見える椅子、テーブルも、その他和紙の照明器機など多くの寄附が寄せられたということです。)



↑ エレベーターにて17階、天望スペース つかさデッキ 17へ移動です。

見晴らしが凄いいです。

天望スペースをどちらの面に持ってくるかを検討して、金華山、長良川が見える北側に天望スペースを設置したとの事です。



↑眼下には、庁舎の向かい側に建つ「みんなの森ぎふメディアコスモス」の全体が見渡せます。



↑4階 みどりの丘にて説明をうける。

議会開催中の為議場の見学をすることはできませんでした。



↑メディアコスモス 考えるスタジオ1に移動して、大日本土木株式会社 片桐栄治氏にお話をうかがいました。

勉強会・セミナーに参加して

■キホンの木の建築講座を受けて

報告者: 下川 滝美

女性建築士からのメーリングリストでこの講座を知りました。(一社)宮城県建築士会主催で共催が(一社)宮城県建築士会女性部会のセミナーです。

コロナ禍で ZOOM の活用により他県の研修を受けることが多くなりました。

外に出かけることも少なくなっていたので興味もあり受講をはじめました。

年間講座で合計 5 回開催されました。

内容は伝統的な木造の意匠や木構造の基本を学ぶというものです。

以前岐阜県建築士会で歴史的建造物の調査をした時に知識がなかったのですが少しでも基本を学べればと思い参加させてもらいました。

内容はとてもマニアックな物が多く知らないことばかりでしたが講師の先生の熱心な話に引き込まれて5回全部受講することができました。

最後は「仙台市の登録有形文化財鳥山米穀店主屋の高断熱高気密改修」の事例でした。

当時築120年の民家兼商店を施主の「店の造りを保存し、米の民俗資料館のようにしたかった」という希望を叶え、また暖かく過ごしやすい家にするという大改修です。

ZOOM ではこの家住んでいる方も参加されて当時をことを振り返り改修後の快適な生活の様子も話されました。

この講座は全国から参加されていました。ZOOM というツールを使ってこうやって全国とつながって自宅にしながら気軽に学ぶことができるのはコロナの副産物としてありがたくおもいました。

キホンの木の建築講座

12021年度は、新しく「キホンの木の建築講座」と題しての勉強会を企画いたしました。
これは2020年度に行った『魅力ある和の空間』の勉強会の趣旨を引き継ぐものです。
伝統的な和の空間を持つ木造建築をより一層理解するために、木造意匠や木構造の基本を学ぼうという目的で開催します。
1年間学べば木の建築がわかって、建物を見学するのが楽しくなります。ご参加お待ちしております。 参加費：無料 CPD有

年間開催全5回
いずれも土曜日の14時から15時まで、ZOOMによるオンラインで行います。

第1回：4月10日（2021年）
第2回：6月12日（2021年）
第3回：8月21日（2021年）
第4回：10月9日（2021年）
第5回：2月12日（2022年）

講師
阿部和雄建築文化研究所 所長 中尾 七雄
研究員 安井 紗子



↑明治7年建築の住宅の書院座敷（仙台市宮城野区）
トコ、タナ、書院の障子廻りが開く。
...宮城野区107番地の長野神社境内の一角

(↑案内パンフレット)

編集後記

48号をお届けします。

令和3年度1年間の報告となっています。

昨年同様、新型コロナウイルスの為、行事等がリモートでの活動が多くなりました。

委員会リモートで4回の開催となりました。

今回は「紫陽花」をマークに使用しましたがいかがだったでしょうか

皆様からの投稿はいつでもお待ちしております。

また、編集参加、問い合わせ、ご意見・投稿・新企画などがございましたら、下記へお寄せください。

編集委員(長瀬)

公益社団法人 岐阜県建築士会
岐阜市藪田南5丁目14番地12号
岐阜県シンクタンク庁舎4階



TEL 058-215-9361 FAX 058-215-9367

<http://www.gifukenchikushikai.or.jp/>

E メールアドレス kensi578@juno.ocn.ne.jp

※ 女性委員会担当まで宜しくお願い致します

